



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。

懐かしの1枚

駅西通り商店街(新町銀座)

昭和30年代・高瀬町



上高瀬村・勝間村・比地二村・二ノ宮村・麻村の5村が合併し、高瀬町となった頃の駅西通り商店街(新町銀座)。高瀬町には、昭和43年(1968)には213の商店があり、昭和57年(1982)には302の商店があった。

「思い出の1ページ」

写真の急行百貨店があった向かい側で、今も化粧品店を営んでいる関和子さん(69)が当時の思い出を語ってくれました。

「急行百貨店は夫の伯父の佐野一(かずいち)さんが戦後間もなく創業し、木造2階建ての大きな店構えで、当時は三豊郡で一番の呉服店として大繁盛していました。麻や二ノ宮から来るバスの停留所があったほどです。私も高校生のときに、母がれんが色の当時『トッパー』と言っていた短いコートを仕立ててくれて、すごく嬉しくて大切にしていたことをよく覚えています。

佐野さんは、爺神公園さくら祭りやおいらん道中、ちんどんやなど、いろいろなことに関わっていて、この写真はそのコマのようです。当時、高瀬駅西通りは、今営業している店舗のほかにも、うどんやラーメン屋さん、魚屋さん、ミシン屋さんなどたくさんのお店が軒を連ねていました。わたしも縁あって、この商店街に嫁いで47年になりますが本日に皆さんに優しくしていただきました。子どもたちが小さい頃、店が忙しくて食事が作れない時

には、『向かいのお店で食べさせてもらおう』とお願いしていた食堂のおばさん、子どもたちが遊びに行っていたがらをして優しく諭して、私には小言も言わずに、面倒を見てくださった急行百貨店のおばさんや、自転車店のおばさんなど、皆さんに助けていただき、本当に感謝しています。昭和26年に創業した店を継いでから、近所の方々への優しさや笑顔に支えられ、ここまで続けられた気がします。」



笠 高生や三豊ナス生産者の熱い情熱が、取材をしているとひしひしと伝わってきました。そして笑顔が満ちあふれていました。山あり、海ありの三豊市では、その立地条件や気候風土を生かし、多彩な味と香りを持ったこだわりの逸品がたくさんあります。世代を超えた連携や生産者の逸品にかける情熱が三豊をどんどん輝かせてくれます。

編集 後記